

小野路宿メディカル・ヴィレッジ事業の進捗 -ヨリドコ小野路宿-

2023年3月13日

Mon.

一般社団法人



地域包括ケア研究所

Laboratory of the Integrated
Community Care System



一般財団法人ひふみ会

まちだ丘の上病院

一二三学園

代表提案者

代表理事 藤井 雅巳



院長 小森 將史



一般財団法人ひふみ会 まちだ丘の上病院

- 設立 : 昭和46年6月
- 代表者 : 藤井 雅巳
- 院長 : 小森 將史
- 許可病床: 医療療養78床
- 運営施設: まちだ丘の上病院、一二三学園(重症心身障害者(児)の療育施設)
訪問看護リハビリステーションヨリドコ

<沿革・事業内容>

- 東京都町田市小野路町の地域密着型医療機関。当初、重症心身障害児の療育施設としての起源があり、その後幅広く障がい者向けの機能改善医療を提供してきた
- 2017年より、一般社団法人地域包括ケア研究所の支援を受け、「地域を支える医療機関」として、高齢者から障がい者ならびに地域のプライマリ・ケアを提供する医療機関として新生、現在に至る

共同提案者

一般社団法人地域包括ケア研究所

- 設立 :平成28年10月
- 代表理事 :藤井 雅巳
- 所長 :鎌田 實

所長 鎌田 實



<沿革・事業内容>

- 東京都に本拠地を置くシンクタンク
- 『共創(つくる)るの先にあるあたたかな地域社会』を理念(MISSION)とし、私たちが提唱する循環型・NORAモデルを活用し体温の高い地域社会づくりに取り組んでいる

<主要関与先>

北海道本別町、北海道名寄市、北海道鹿追町、北海道上士幌町、北海道羽幌町、北海道士別市、
国立大学法人旭川医科大学、北海道本別高等学校、福島県西会津町、長野県茅野市、香川県三豊市

共同提案者

秋山立花一級建築士事務所

- ・ 設立 :平成20年6月
- ・ 代表 :秋山 怜史

代表 秋山 怜史



<沿革・事業内容>

- ・ 「社会と人生に新しい選択肢を産みだす」を理念に掲げ、平成20年に一級建築士事務所秋山立花を設立。住宅、共同住宅、保育園などの設計活動を行うとともに、社会課題を解決するためのプロジェクトの企画を行う。
- ・ 平成24年に全国で初めての事例となるシングルマザー専用シェアハウス「ペアレンティングホーム」を企画。令和元年からは活動をより広域におこなうためにNPO法人全国ひとり親居住支援機構を立ち上げて代表理事に就任。

1. 提案事業の実施に至る背景・問題意識について

提案事業の実施に至る背景は、まちだ丘の上病院の地元・町田市小野路町の社会的な課題であり、日本の地方の課題そのもの

超高齢化社会

小野路町の高齢化率(32%超)、同・後期高齢化比率(19%以上)。
高齢化がもたらす健康課題、
医療需要のひっ迫、多死社会、
介護の担い手不足
(2016年)

社会インフラ の断絶

「小野路問題」ともいわれる
地理的な課題による
交通インフラの整備の遅れが、
医療・福祉サービスが行き届かない
また、日常の買い物などの生活難民も

自然・文化の 継承

小野路宿としての歴史や文化、
そして街並みの継承
また、「にほんの里100選」
にも選ばれた
里山を後世に残していくこと

ソーシャル・ フレイル

高齢化や生活様式の変化などに伴う
地域のつながりが失われ、
閉じこもり、引きこもり、貧困、孤食
などの問題を引き起こしている
これらの問題は連鎖し、地域社会維持を
困難なものへとしていく

2. 本提案事業の内容について－(1)施設整備

①古民家(3棟)を改修・活用した工夫について

- 宿通り(小野路宿)の街並みの保全・継承のために、溶け込む建築材や色味などを採用
- 建築前の段階で、地域住民向けの説明会 & アイデアを募るためのワークショップを実施



2. 本提案事業の内容について－(1)施設整備

①古民家(3棟)を改修・活用した工夫について

- ウッドデッキで3つの建物が一体的に活用できる工夫、集会所の内と外が一つの空間として利用できる
- 入り口から菜園、里山までが人の往来がしやすいように設計されており、自然と人が回遊するような空間を形成

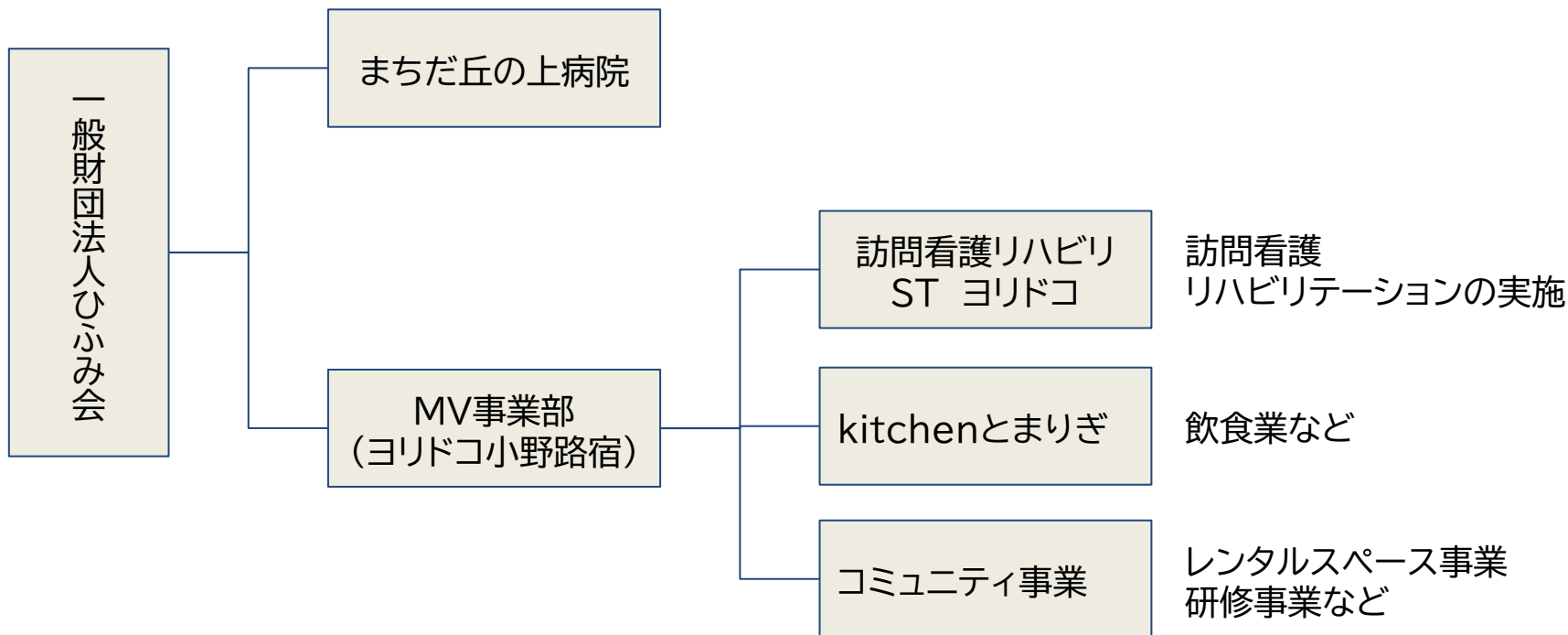


2. 本提案事業の内容についてー(1)施設整備



2. 本提案事業の内容－(2)施設の運営・利用状況－①運営体制

「ヨリドコ小野路宿」は、まちだ丘の上病院を中心とした医療事業をベースに事業運営している法人であり、法人内のMV事業部が管轄、訪問看護ST事業、kitchenとまりぎ事業、コミュニティ事業に分かれている

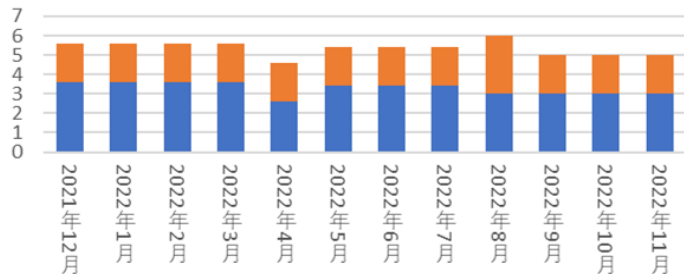


2-(2)-② 訪問看護リハビリステーションヨリドコの運営

- 24時間対応の訪問看護リハビリステーションでターミナルケアなども担う
- 地域に開かれた施設の中にある訪問看護として、日常的に地域住民とのコミュニケーションを取りながら、医療・介護が必要な際に頼れる存在
- 利用者数は、徐々に増加してきている。また、内訳で見ると医療保険を利用される方(ターミナルや難病など医療必要度が高い方)が増えている

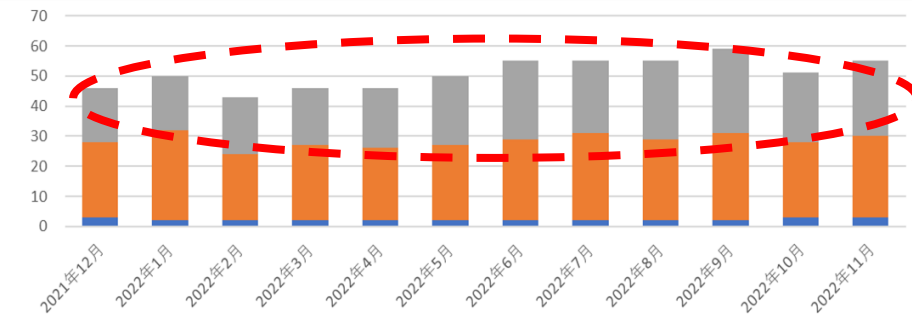


スタッフ数の推移



	2021年12月	2022年1月	2022年2月	2022年3月	2022年4月	2022年5月	2022年6月	2022年7月	2022年8月	2022年9月	2022年10月	2022年11月
リハビリ	2	2	2	2	2	2	2	3	2	2	2	2
看護師	3.6	3.6	3.6	2.6	3.4	3.4	3.4	3	3	3	3	3

利用者数の推移

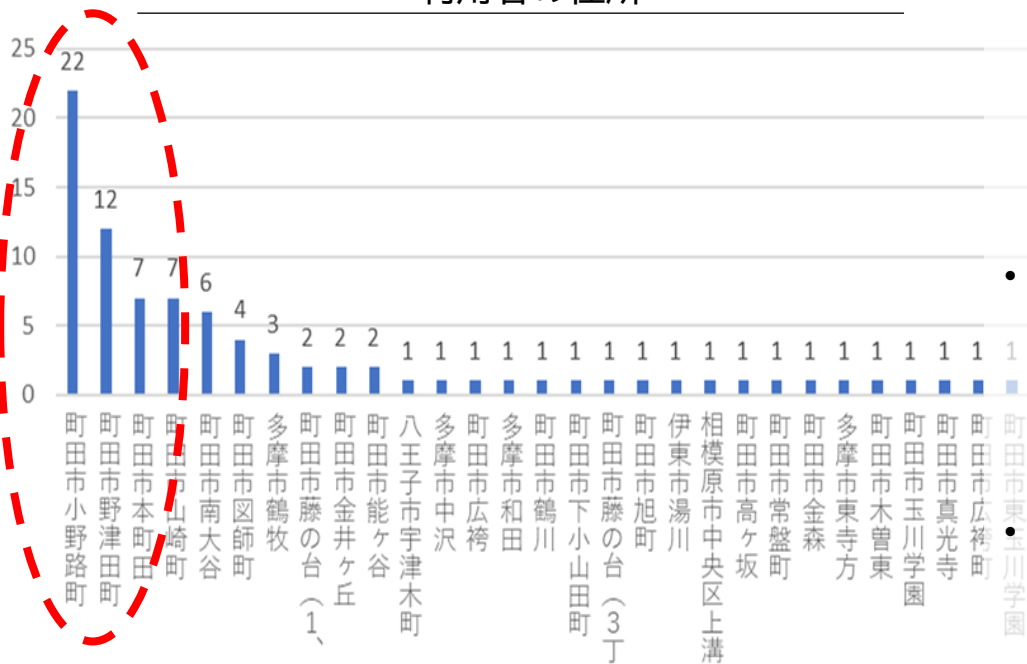


	2021年12月	2022年1月	2022年2月	2022年3月	2022年4月	2022年5月	2022年6月	2022年7月	2022年8月	2022年9月	2022年10月	2022年11月
医療	18	18	19	19	20	23	26	24	26	28	23	25
介護	25	30	22	25	24	25	27	29	27	29	25	27
予防	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3

2-(2)-② 訪問看護リハビリステーションヨリドコの役割

- 訪問看護ステーションの利用者は、小野路町・野津田町などの近隣の利用者さんが多く、「地域を支える」役割の一端を担っている

利用者の住所



2021年11月～現在

● 地元自治会イベントの感染対策のご協力

- ✓2022年の小野路夏祭り(コロナにより中止)の、感染対策アドバイス
- ✓小野路町内会による『防災PRイベント』への看護師参加

● 地域住民向けの健康イベントの企画

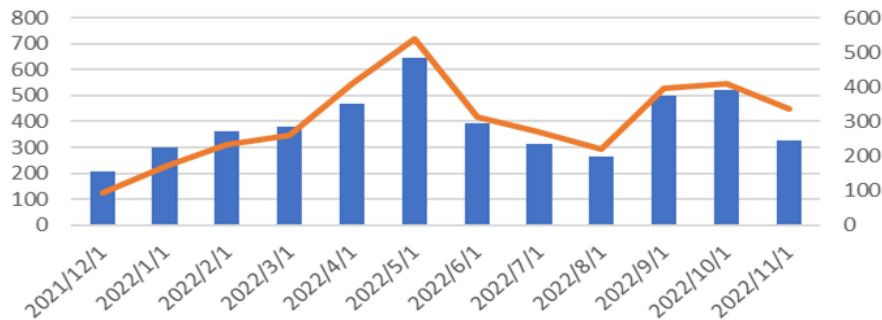
- ✓丘の上サロン(毎月第3木曜日)にて医療専門職から健康情報のご提供

● 自主グループの発足サポート

- ✓サンサンクラブ(体操グループ) 毎週火曜日 集会所で体操や運動を実施
- ✓歩く会 月1回、水曜日に開催する里山歩き

2-(2)-③ kitchenとまりぎの運営

- 地域の人々などがヨリドコを訪れるきっかけの場
- ランチタイムを中心に営業(将来的には朝や夜の営業など営業時間の幅を広げていきたい)
- kitchenとまりぎや、ヨリドコを利用していただく方々を繋ぐ、リンクワーカーとして機能し、より良いコミュニティ作りをサポート
- 現在はまだこれから育てていきたいが、『配食』や『こども食堂』など、『食』の観点から地域課題の解消に取り組めるような施設に成長させたい



	2021/12/1	2022/1/1	2022/2/1	2022/3/1	2022/4/1	2022/5/1	2022/6/1	2022/7/1	2022/8/1	2022/9/1	2022/10/1	2022/11/1
客数	155	224	272	285	352	484	294	236	199	375	391	244
売上	123	225	311	348	544	718	419	358	293	529	548	450

2-(2)-③ コミュニティスペース(集会所・和室・蔵・裏山)

- コミュニティスペースは、ヨリドコのVISIONを達成するためのつながりときっかけの空間。
- ホームページから事前予約を受けたら、メールで利用規約や鍵の貸出方法などを告知し、当日はそのまま利用可能。
- 特に管理者などは常駐していない。
- 和室や母屋2階は、研修(宿泊型研修も含む)などにも利用出来るようにしている。



スペース	利用率(月間)
集会所	90%
和室	40%
蔵	※整備中につき個別レンタル中止
裏山	※大型イベント時などので利用

標～vision～	9月	10月	11月
『つながる場』	12名	23名	220名
『生かす仕組み』	75名	36名	149名
『育む環境』	258名	63名	0名
総計	345名	122名	371名

2-(2)-③ イベント等事例 『ちいここ合宿 8月・9月』(専門研修)

- 『地域医療がここにある(ちいここ)』の参加学生が、8月29-30日、9月28-29日の2回に渡り、ヨリドコ小野路宿で地域医療の夏合宿を実施。全国から延べ15名ほどの医療系学生が合宿に参加し、地域医療について学んだ。

緑と人が豊かな居場所がここにある

ヨリドコ小野路宿ツアー

東京都町田市

日程A 8/29-30 (Mon, Tue)

日程B 9/28-29 (Wed, Thu)

参加費 3000円

各日程最大 7名

こんな人におすすめ

- 病院では会えない人との、優りあいのヒントが欲しい人
- 安心して休めたい、温かい「ホッ」を味わいたい人

体験できること

- 医療学生がカブの体験を通して、地域の人とフレンドに交流できる。
- 町田市ならではの施設が体験できる。
- 町田市の市域探検がオンラインでできる。



2-(2)-③ イベント等事例 『9月～10月 小野路シルク工房 (養蚕)』

小野路の宿通りは昔『シルクロード』と呼ばれた道であったことから、ヨリドコ利用者が発起人となり、ヨリドコの蔵を利用して養蚕にチャレンジをした。

8月下旬～9月下旬までの1ヶ月は、カイコの飼育。無事に営繭(エイケン)した後は、繭の乾燥から製糸までの工程をヨリドコ内で行った。

本イベントに関わった参加者は、延べ300名を超え。その他、多くの来場者に養蚕の様子を見学していただくことで、地域の歴史や養蚕の情報を提供することが出来た。



2-(2)-③ イベント等事例 『11月5日 ヨリドコ祭り』

ひふみ会が毎年恒例で行っている『焼き芋バザー』を、今年はヨリドコ小野路宿で開催した。

当日は、焼き芋無料配布(約300本)を中心に、一二三学園によるバザーや、飲食屋台(焼き鳥、おやき、コーヒーなど)も出店し、200人を超える方にご来場をいただいた。

また『小野路囃子連』の方々をお招きし、2年ぶりとなる祭り囃子の演奏を地域の方々にお届けすることが出来た。

ヨリドコまつり 2022

小野路囃子連

11/5(土)

2回公演 11:30~ 13:30~

郷土の味覚 11/5(土) 12:00~

焼きいも配布 先着150本

青竹踏み制作 ワークショップ 11/5(土) 10:00~15:00

健康増進 10:45~

ヨリドコ 主催



2. 本提案事業の内容ー(3)複数の事業を複合的に解決するスキーム「ごちゃまぜ型」で実施

①多世代利用のメリット・デメリット

- 世代を限定しないからこそ、疑似地域が形成できる
- 親世代や祖父祖母世代が、子供たちと一緒に関わる事ができる

②利用者同士の活発な交流を誘発・促進するための工夫及び効果、トラブル等の防止策

- 月一回のメンテナンスデー
- コミュニティの連携プラットフォーム/オンラインの場



2. 本提案事業の内容－(3)複数の事業を複合的に解決するスキーム「ごちゃまぜ型」で実施

③周辺地域(住民)との関係・波及効果

- ・ 町内会との関係構築・連携
- ・ 町内ボランティアな会との交流・活動促進



④地域資源である古民家や里山(裏山、菜園)の活用における効果

- ・ 裏山(竹林)を通じた団体やプレーヤーとの連携(小野路竹倶楽部、小野路シルク工房、近隣農家、その他)
- ・ 菜園を通じて、ボランティアな資源の関与(セミリタイアした高齢者、農家、高校生など)



3. 取り組みの成果 — (1)提案内容の達成状況等

- 地域で活動する団体、個人などの地域に既に存在していたであろう資源を掘り起こし、それらが活動するきっかけを提供し、そのつなぎ役のような役割を担うことについて、一定の役割を担っている
- 一方で、利用者数や当初想定したような健康指標におけるハードアウトカムなどについては、具体的な変化が起こるまでは、時間を要するうえ、検証なども容易ではない



3. 取り組みの成果 — (1)提案内容の達成状況等

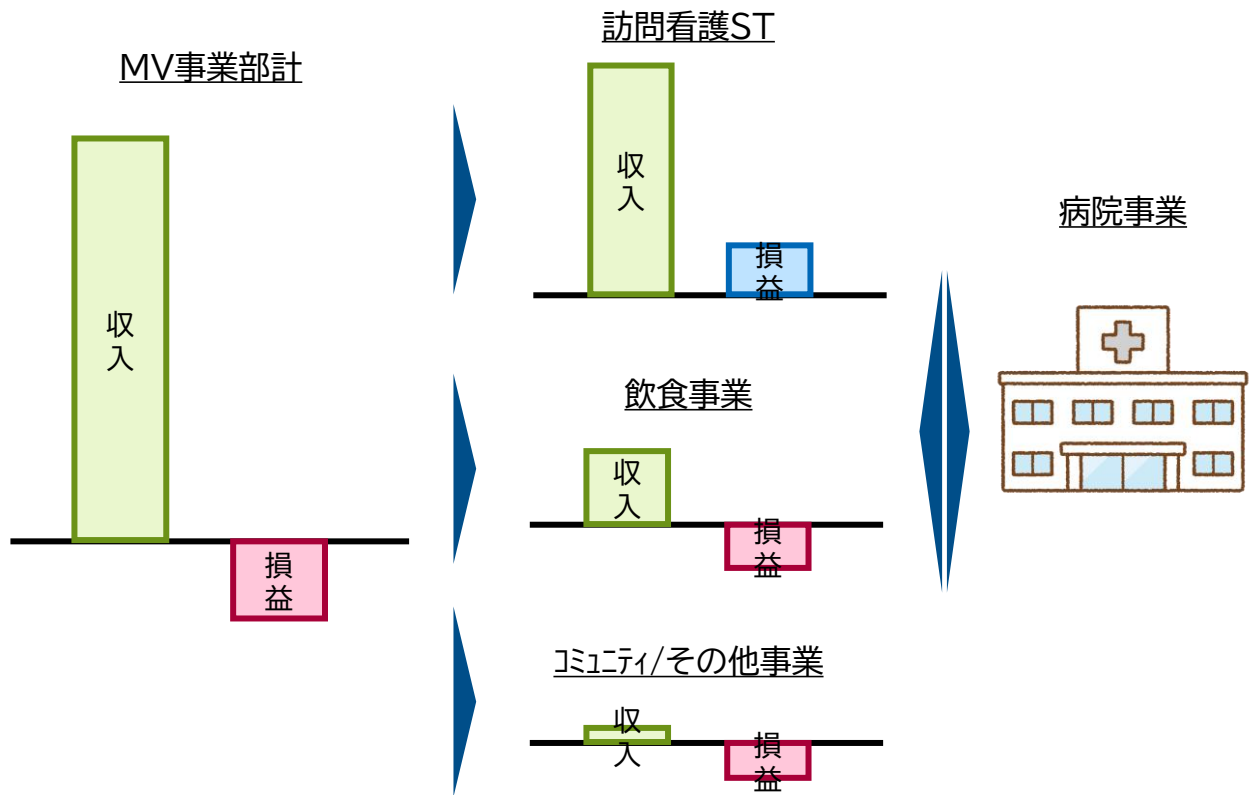
提案内容を実施するなかで未想定であった、あるいは想定以上に解決が困難な課題については以下がある

- 閉鎖的な地域との境界線の存在
- ボランティアな力(互助)を生かすための仕組み
- エネルギーを持つ地域資源をコミュニティの中でどのように生かすか



3. 取り組みの成果 — (2)事業収支

MV事業部単体での損益は赤字での運営となるが、法人全体での効果検証が必要である。



- MV事業部の収入の大半は、介護保険の許認可事業である「訪問看護ステーション」から生まれている
- 一方、ヨリドコ小野路宿の価値の源泉となっている「飲食事業」と「コミュニティ事業(レンタル事業)」については、現状は赤字での運営となっている
- ひふみ会全体として、事業採算をどのように想定するかは、別途議論の余地があるが、「広告宣伝費」や「採用関連費」などへの寄与が考えられ、それらを踏まえて検討する必要があると考えている

4. 今後の方向性 — ①定量的なデータを活用した取り組みの効果を検証資料

MV事業は、提案当初は以下のような定量評価を想定している。①の利用者数については集計をしているものの、他の指標についてはまだアウトカムが出てくるまでには至っていない。

①多様な世代間の交流

(高齢者、障がい者、子育て世代、単身世代
子供等の多様な世代が利用者し、
その交わりを生み出すこと)

⇒世代ごとの利用者数で把握

②地域資源の有効活用

(空き家の有効活用、
地域の自然・文化資源の有効活用)

⇒空き家リノベーション、
体験企画参加者数

③地域の健康指標改善

(現在行き届かない医療・福祉サービス提供、
健康意識を高めることで、健康指標改善する)

⇒サービス利用者数
要介護認定率、疾病率、他の改善

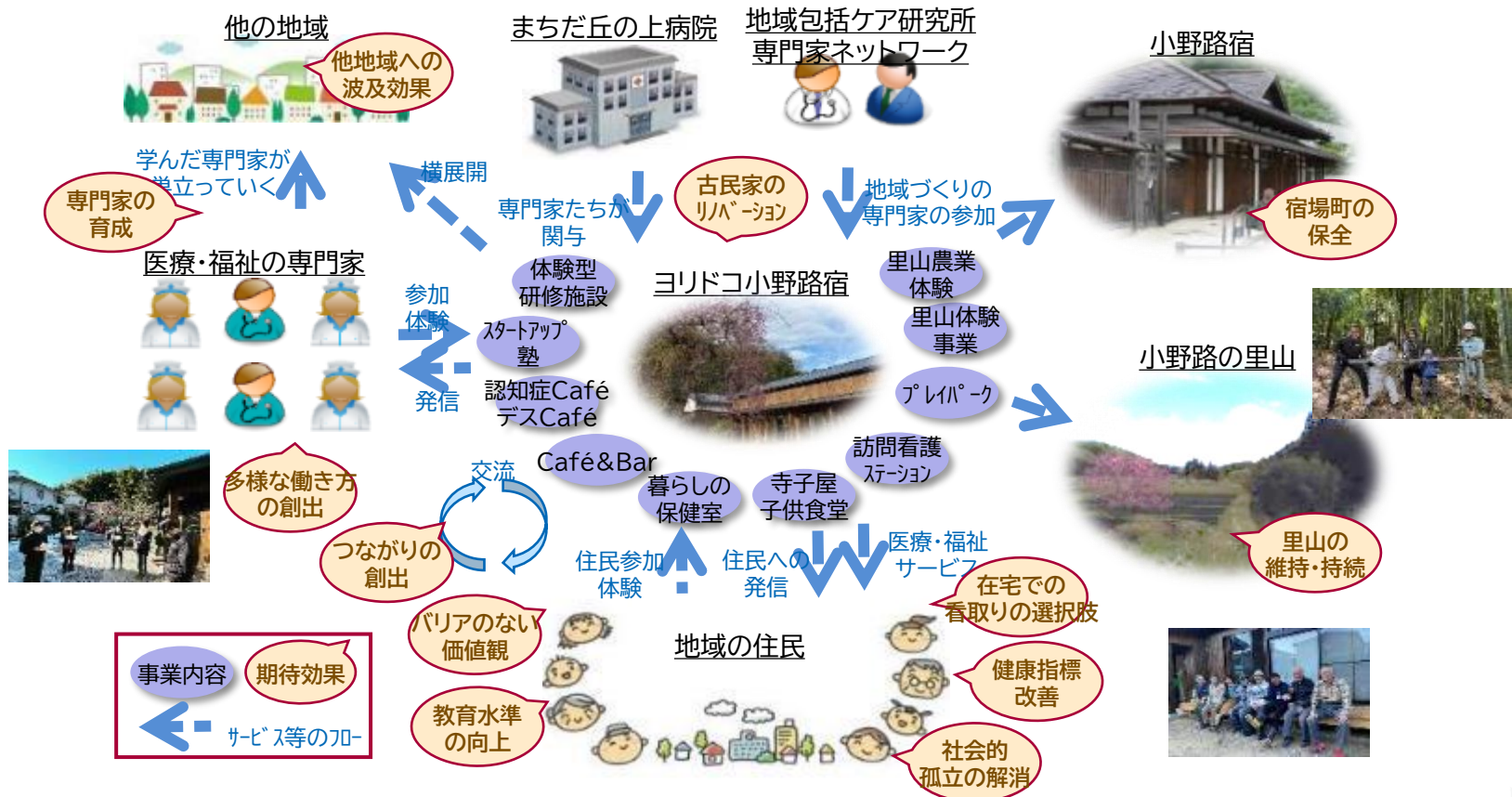
④多様な働き方の創出

(起業家の育成、コミュニティ×医療者、
ダブルワークなどの働き方をする人材の輩出)

⇒講座参加者数(MVからの卒業生数)

4. 今後の方向性 - ②地域の「ヨリドコロ」としてのこれからの可能性

本事業の存在が、地域にとっての「ヨリドコロ」となり、「あるといいな」があるところはこれからの目標。





お問い合わせ

本資料について、更なるお問い合わせなどがある場合は、以下までご連絡いただけたら幸いです。

法人名：一般財団法人ひふみ会

住 所：東京都町田市小野路町11-1

担 当：藤井 雅巳 hope@machida-hospital.com

高橋 信一 s-takahashi@machida-hospital.com





ヨリドコ
小野路宿